

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県央会場＞

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 発達には個人差があるので、特性や育ちの今を踏まえた援助が大切と学びました。また、子どもは遊びのなかで相手と自分の考え方の違いに気付いたり、自分の考えが認められたりすると心地よさを感じ、友達に対してもそのように関わろうとすることを知りました。子どもの発達段階や心理状態を理解し、一人ひとりに合わせた適切なサポートを提供し、安心して過ごせる環境を作りたいと思います。
- ◆ 子どもと関わるときには、身体の様子、言葉、表情、人との関係、置かれている環境を理解し、受け止めて支援する重要性を感じました。放課後児童クラブで関わる児童期は、自覚性や計画性が発達する時期で、どうしたいのかをよく聞いて、子どもの考えを認め受け止め対応していきたいです。子ども一人ひとりの良さに、しっかり目を向けていこうと思いました。
- ◆ 支援員は子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、発達の個人差を踏まえて一人ひとりの心身の状態を把握しながら育成支援を行うことが必要であることを学んだ。対応の一歩として背景を理解し、安心感や自己肯定感を高める日々の言葉掛け、問題となる行動が出る前に対応することが大事だと思った。子どもは遊びの中で様々なことを学習し、遊びを通して運動能力や社会性等を発達させることを学んだ。
- ◆ 「発達」とは心や身体の働きが日々変化していくことであり、支援員は子どもの発達段階における特徴やその過程を理解し、発達の個人差を踏まえて一人ひとりの心身の状態を把握しながら援助していくことが必要であることを学んだ。子どもは、生活、遊び、学習において成功や失敗を繰り返して成長していく。それをまるごと許容し、人生の経験として生かせるよう指導、支援していきたい。
- ◆ 子どもの発達には、個人差だけでなく、きちんと段階があることが分かりました。その発達（成長）のなかで、安心の輪というのがどの段階でも存在していたので、そういう存在になれるように子どもたちと関わっていきたいと思いました。またその中で、子どもたちが出しているサインを見逃さないように職員間での情報共有だけでなく、保護者や学校などとも情報共有を行っていきたいと思います。